



ドクター・ワッシー

診察室

ざくばらん

急な発生なら

病気に注意を

高齢者の頭痛

医者の仕事とは、患者さんを手術したり、薬を処方したりすることだけではない。時には、患者さんと呼べないひとの相手をすることもあ

る。
87歳のF子さん。「センセのコラムはいつも楽しみ。でも、この頃は、頭が痛い若いひとの話ばかりや」とご不満の様子。で、「頭痛くないから、私のことを書かないよね」と言われたら、書くしかないか。

65歳とか70歳も過ぎれば、高齢者とか老人と呼ばれる。が、F子さんは、そんな言葉を絶対に受け入れないだろう。なら、彼女をどう呼んだらよからう。そつだ。「美魔女」というのはどうか。

ま、それはわかっておき。片頭痛など、

ツライ頭痛は20〜40代の若い女性に圧倒的に多い。だが、女性も60を過ぎれば、たまに片頭痛の発作が起きても寝込むことも少なくなる。女性ホルモンが関係しているのか、精神的にもストレスが減るせい。やがて、頭痛持ちだったことも、少しずつ忘れていくものだ。

というのに、美魔女が魔女そのものが、急に、「頭が痛い」と言い出したらタイヘンだ。ひょっとして、脳出血か、くも膜下出血では？ あんな突然起きた頭痛ではない。なら、脳腫瘍か。年を取るとがんになりやすい。脳に転移して頭痛を起すこともある。いや、いつの日か頭を打っていて、慢性硬膜下血腫ができたかもしれない。そつか、それもおおげさか。ただの首の骨が変形して起きた頭の表面の神経痛か？ などと、ワッシーも無い知恵を絞らなければならぬ。

でも、F子魔女だけは大丈夫だ。頭の検査をするまでもない。いつもの表情で、少しも変わらない話しぶり。今日もワッシーをタジタジにさせている。で、「健康そのものだ」と言ったら、「その言葉で、また元気になる」ときた。これも医者の仕事だ。



イラスト・野畑桃花

(石黒修三) いしぐろクリニック
・脳神経外科専門医、金沢市在住、
射水市出身)